

ぶどう (大粒種)



【技術力】	(易)									(難)
【資本金】	(小)									(大)
【労働力】	(小)									(大)
【販売力】	(低)									(高)
【収益性】	(低)									(高)
【気候リスク】	(小)									(大)
【排水性】	(低)									(高)
【産地】	村山、置賜、庄内地域									
【施設・機械】	雨よけハウス、(加温ハウス)、防除機、草刈機、(冷蔵庫)、作業舎、軽トラック 等									
【栽培期間】	周年 (うち収穫期間) 7月中旬～10月下旬 (12月中旬)									

ポイント 需要の高い「大粒種」の栽培が増加しており、中でも食味の優れる「シャインマスカット」は消費者の人気が高く、本県でも栽培が増加している。
栽培については、近年、短梢仕立てが開発され、以前に比べ品質は安定するようになった。
また、冷蔵と水分補給による長期貯蔵方法が確立され、需要の幅が広がっている。

トマト (ハウス夏秋栽培)



【技術力】	(易)									(難)
【資本金】	(小)									(大)
【労働力】	(小)									(大)
【販売力】	(低)									(高)
【収益性】	(低)									(高)
【気候リスク】	(小)									(大)
【排水性】	(低)									(高)
【産地】	県内全域									
【施設・機械】	栽培ハウス、トラクター、管理機、防除機、(選果施設)、作業舎、軽トラック 等									
【栽培期間】	3月下旬～12月上旬 (うち収穫期間) 6月下旬～11月下旬									

ポイント ハウス栽培を前提とし、設備投資が必要である。水稲育苗ハウスの後地利用も可能であるが、経営的な面白みに欠けるため、専用ハウスとするべきである。技術面においてはマニュアル化されており、平均的な経営目標に達することは可能である。さらに一歩進んだ栽培を行うためには栽培中～終期の収量を増加させるため、肥培管理技術の向上を目標とする。
労力面では収穫、選果調整作業が多いため、綿密な労務管理が必要である。既存産地では共同選果施設を利用することで経営成果を上げている。

ミニトマト (ハウス夏秋栽培)



【技術力】	(易)									(難)
【資本金】	(小)									(大)
【労働力】	(小)									(大)
【販売力】	(低)									(高)
【収益性】	(低)									(高)
【気候リスク】	(小)									(大)
【排水性】	(低)									(高)
【産地】	県内全域									
【施設・機械】	栽培ハウス、トラクター、管理機、防除機、(選果施設)、作業舎、軽トラック 等									
【栽培期間】	3月下旬～12月上旬 (うち収穫期間) 6月下旬～11月下旬									

ポイント トマトの消費拡大の先駆けとなった種類のトマトであり、ハウス栽培を前提とし、設備投資が必要である。技術面においてはマニュアル化されており、平均的な経営目標に到達することは可能である。一歩進んだ栽培を行うには、栽培期間中に安定した収量を維持するための肥培管理技術が必要である。
労力面ではトマトの中で、最も収穫、選果調整作業が多いため、綿密な労務管理が必要である。既存産地では共同選果施設を利用することで経営成果を上げている。

中玉トマト (夏秋雨よけ栽培)



【技術力】	(易)									(難)
【資本金】	(小)									(大)
【労働力】	(小)									(大)
【販売力】	(低)									(高)
【収益性】	(低)									(高)
【気候リスク】	(小)									(大)
【排水性】	(低)									(高)
【産地】	県内全域									
【施設・機械】	栽培ハウス、トラクター、管理機、防除機、作業舎、軽トラック 等									
【栽培期間】	3月下旬～12月上旬 (うち収穫期間) 6月下旬～11月下旬									

ポイント 多様なトマトとして、品種開発の効果もあり消費拡大している。ハウス栽培を前提とし、設備投資が必要である。技術面においては中玉トマトほどの難しさはなく、平均的な経営目標に到達することは可能である。一歩進んだ栽培を行うには、栽培期間中に安定した収量を維持するための肥培管理技術が必要である。
労力面では中玉トマトとミニトマトの中間に位置するが、綿密な労務管理が必要である。